

# 千葉の園芸

発行所 千葉市中央区市場町 1-1  
公益社団法人千葉県園芸協会  
連絡先 043 (223) 3005  
発行日 毎月 1 日  
平成 31 年 3 月号

果樹ニュース



## 一宮・岬梨組合における大苗育苗ほ場の設置

夷隅農業事務所 改良普及課  
普及指導員 鈴木 奈緒

一宮・岬梨組合ではナシの早期成園化に必要な大苗を育成するための育苗ほ場を県の補助事業を活用して設置しました。このほ場で育成された大苗を活用し、2 本主枝一文字整枝やジョイント栽培による改植を進め、産地の課題である老木化の解消が期待されます。

### 1 早期成園化技術

一宮・岬梨組合ではナシ樹の老木化が進み、幸水の 4 割、豊水の 6 割が樹齢 30 年以上となっています。このため、生産量のピークを過ぎた樹が多く、今後の産地全体の生産量の低下が懸念されています。

ナシ樹の植え替え(改植)が進まない背景には、改植してから安定した収量が得られるまでの期間(未収益期間)が長いことが挙げられます。このため、県内ナシ産地では未収益期間が短くなる早期成園化技術として、千葉県が開発した 2 本主枝一文字整枝、神奈川県が開発したジョイント栽培が導入されています。

### 2 事業の導入

組合内にジョイント栽培を試験的に導入した生産者や、ジョイント栽培での改植を希望する生産者がいることから、平成 30 年度に新設された「早期成園・省力化のためのナシ改植促進事業」を活用し、岬支部が事業主体となり、大苗育苗ほ場を設置することになりました。

早期成園化のためには長さ 3.5m 以上の大苗が必要で、今までは生産者個人で大苗用の施設を作り、栽培管理も個人で行う必要がありました。共同の大苗育苗ほ場を設置することにより、個人で棚を設置する必要がなくなり、管理労力も削減され、改植面積の増加が期待されます。生産した苗木は、一宮・岬梨組合内で販売する予定です。

事業導入の検討に際しては、岬支部の役員及び農協、市が棚の設計や栽培管理について連携を取りながら進め、共同の大苗育苗ほ場の先行事例である白井市の「しろいの梨育苗センター」を視察して現地情報を共有しました。

### 3 設置作業

棚用のパイプ、高所作業車、苗木や培養土等の資材を購入し、組合内の若手生産者で組織される研究部を中心として棚の施工を行いました。

また、苗木の定植については岬支部各地区の班長も参加し、今年度分の幸水苗木 330 本を植えることができました。



完成した棚

### 4 大苗の活用

今回設置したほ場では、大苗を年間最大 400 本育成することができます。初年度の大苗は 2 戸の生産者がジョイント栽培に利用する予定で、早期に成園並みの収量が得られるため、生産者個人の経営や産地の生産量の維持の面から有効な改植方法と言えます。

今後は、この施設で育成された大苗を活用した改植、新植により産地の維持発展が期待されます。



苗木の定植作業

野菜ニュース



## 7 月どリエダマメの優良品種の選定 (第 67 回全日本野菜品種審査会)

千葉県農林総合研究センター 暖地園芸研究所  
野菜・花き研究室 上席研究員 宮本 直子

4 月下旬播種の 7 月どり栽培に適した優良品種として、「M3-025」((株)サカタのタネ、販売名「とびきり」)、「夏風香」(雪印種苗(株))、「ゆかた娘」(カネコ種苗(株))及び「MEB-600」(丸種(株)、販売名「京の夕」)の 4 品種を選定しました。

### 1 はじめに

千葉県におけるエダマメの産出額は 47 億円で全国第 1 位(平成 28 年生産農業所得統計)です。主な産地は東葛飾地域で、ゴールデンウィーク頃から季節を先取りしたエダマメの出荷を行っています。一方、南房総地域では在来大豆を活用した晩生エダマメ産地が形成されており、秋の味わい深いエダマメとして評価を得ていますが、近年は、市販エダマメ品種を用いて出荷期間を拡大することが試みられています。そこで、南房総地域の 4 月播種 7 月収穫の作型において、生育の揃いや収量の多い品種を選定することを目的に、第 67 回全日本野菜品種審査会が開催されました。

### 2 審査結果

出品された 11 品種について平成 28 年 7 月 21 日に審査を行い、入賞した品種は、「M3-025」((株)サカタのタネ)、「夏風香」(雪印種苗(株))、「ゆかた娘」(カネコ種苗(株))及び「MEB-600」(丸種(株))の 4 品種でした。

「ゆかた娘」(カネコ種苗(株))及び「MEB-600」(丸種(株))の 4 品種でした。(表 1) 1 等の「M3-025」は莢数が特に多く、生育の揃いが良い点が高く評価されました。入賞品種はおおむね食味が良好でした。

平成 28 年は、生育期間中の平均気温が平年よりもおおむね高く推移し、生育は全般に良好であったので、収穫期はやや早くなりました。産地で導入するに当たっては、収穫期の年次変動等を考慮してください。



表 1 第 67 回全日本野菜品種審査会(エダマメ(露地・夏どり))の審査結果及び入賞品種の特性

順位	品種名	出品社名	得点	開花期 (月日)	主茎長 (cm)	可販莢数 (千個/10a)	可販莢率 (%)	可販収量 (kg/10a)
1	M3-025	(株)サカタのタネ	337	6月 8日	32.0	354	75	1,195
2	夏風香	雪印種苗(株)	334	6月 8日	25.6	274	72	891
3	ゆかた娘	カネコ種苗(株)	329	6月12日	35.8	333	67	1,000
4	MEB-600	丸種(株)	329	6月 7日	39.0	286	72	926

注 1) 栽培場所は野菜・花き研究室露地圃場(館山市)、土壌は第 3 系粘質土

2) 平成 28 年 4 月 27 日に 1 か所 3 粒を播種し、5 月 24 日に 1 か所 1 本に間引いた

虫害及び鳥害により欠株が生じたため、同日に播種しておいた区外の予備株を補植した

3) ベッド幅 100cm、通路幅 80cm、条間 30cm、株間 15cm の 4 条並列植え(黒マルチ使用)とした

4) 基肥の 10a 当たり施肥分量は、窒素 3kg、リン酸 10kg、加里 10kg とし、追肥は行わなかった

5) 審査は平成 28 年 7 月 21 日に行い、配点は立毛 100 点、収穫物 300 点の合計 400 点満点であった

6) 1 花以上開花した株が各区の半数以上となった日を開花期とした

7) 可販莢数は、4 粒莢、3 粒莢及び 2 粒莢の合計とした

8) 可販莢率は全莢数に対する可販莢数の割合として求めた

9) 可販収量は、4 粒莢、3 粒莢及び 2 粒莢の莢重の合計とした



# イヌマキの接ぎ木技術と取り木技術

千葉県農林総合研究センター 花植木研究室  
研究員 下江 憲

イヌマキの腹接ぎは3、4、6、7月に接ぎ木し、呼び接ぎは3~8月に接ぎ木し9月以降に根鉢を切り離すと安定して活着します。取り木は3、4月に木部が見えるまで環状剥皮し、9月以降に取り木すると、その後健全に生育します。

## 1 はじめに

イヌマキは植木輸出の主要樹種ですが、輸出には枝ぶりの良いものが求められます。盆栽類の生産では枝ぶりの改善による商品価値の向上等を目的に様々な接ぎ木技術が用いられています。そこで、イヌマキの枝数を増やし枝ぶりを改善するために、盆栽類で用いられている腹接ぎ、呼び接ぎをイヌマキに用いた際の適期の確認と取り木技術を開発しましたので御紹介します。

## 2 接ぎ木の種類、取り木について

腹接ぎは樹木の幹枝に穂木を接ぐ方法で枝を付けたい場所に短時間で多数の穂木を接ぐことができます。

呼び接ぎは鉢植えの苗木を穂木として台木の樹幹に接ぎ、穂木の活着後に根鉢を切り離す技術で、腹接ぎで穂木が枯死しやすい樹種の接ぎ木に用います。

取り木は樹木の幹枝を環状剥皮し、ミズゴケで包んで養生することで剥皮部分から発根させ、幹枝を切断・鉢上げ(取り木)する技術で、枝ぶりの良い部分だけを商品にできます。

## 3 イヌマキの腹接ぎ適期

イヌマキの新梢を採穂し、長さ4cm程度に調製した穂木をイヌマキ台木に3~8月にかけて腹接ぎした結果、3、4、6、7月で70%以上活着しました。5月、8月の乾燥しやすい時期は活着率が低く、イヌマキの腹接ぎには適しません。(図1)

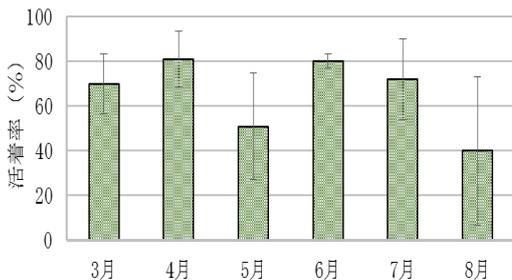


図1 腹接ぎの接ぎ木時期の違いと活着率

注1) 穂木: 穂木長4cm、枝径3mm、1区10本3反復 台木: 樹高250cm、幹径30~40mm

2) 接ぎ木日

平成27年: 4月21日、5月22日、6月19、22日、7月29、30日、8月21、27日

平成28年: 3月18日、4月19日、5月19日、6月15日、7月28日、8月18日

平成29年: 3月29日、4月19日、5月19日、7月6日

3) エラーバーは標準誤差

## 4 イヌマキの呼び接ぎ適期

イヌマキの呼び接ぎは3~8月に樹高40cm程度のイヌマキ苗木を台木に呼び接ぎし、根鉢を9月以降に切り離すと安定して活着します。(表1) また、接ぎ木時期が4~6月では、伸長量が4月接ぎ木が最も大きく、次いで5月、6月の順となるため(データ省略)、早い時期に接ぎ木し、9月以降に根鉢を切り離すことが望ましいです。

表1 呼び接ぎの接ぎ木時期及び根鉢切り離し時期と穂木の活着本数

接ぎ木日	根鉢切り離し時期別穂木の活着数							
	4月28日	5月30日	6月30日	8月1日	9月11日	10月2日	10月30日	11月28日
3月28日	0	0	2	2	4	4	4	4
4月18日	—	0	2	3	3	4	3	3
5月29日	—	—	0	2	3	4	3	4
6月27日	—	—	—	0	3	4	4	4
8月22日	—	—	—	—	—	4	4	4

1) 穂木: 4号ポット・樹高40cm、幹径4mmから6mm 1区4反復

台木: 樹高250cm、幹径40mm

2) 活着穂木数: 調査時点(12月15日)で生育していた穂木数

3) 表中の■は根鉢の切り離し時期が平成29年9月11日以降であることを示す

4) —: 試験実施無し

## 5 イヌマキの取り木技術

3、4月にイヌマキの主幹を木部が露出するまで環状剥皮し、9月以降に取り木すると、その後健全に生育します。(表2)

表2 環状剥皮時期及び取り木・鉢上げ時期と発根本数、鉢上げ後の障害程度

環状剥皮日	取り木 鉢上げ日	調査時点の	
		発根本数	障害程度
3月28日	9月11日	144	0.0
	10月20日	320	0.5
	11月17日	308	0.5
4月17日	9月11日	208	0.3
	10月20日	210	0.3
	11月17日	203	0.5
5月19日	9月11日	86	5.0
	10月20日	68	5.0
	11月17日	100	0.5
6月30日	9月11日	11	4.0
	10月20日	24	1.5
	11月17日	111	0.5
8月3日	9月11日	—	—
	10月20日	24	1.8
	11月17日	57	2.3

注1) 台木: 樹高200cm

幹径40mm

供試数は1区あたり2鉢

2) 調査日: 平成30年1月19日

3) 障害程度: 葉身の枯死の程度を0(障害なし)~10

(枯死)とした

4) —: 試験実施無し

## 6 おわりに

接ぎ木や取り木は養生期間中に接合部が乾燥すると活着や発根できず枯死します。接ぎ木後は接合部を養生テープ等で密着させ、呼び接ぎや取り木は環状剥皮後、鉢が乾かないよう適時かん水します。

頑張る産地



## 若い従業員が集まる職場環境づくりに取り組む 切り花経営 南房総市 有限会社折原園芸

安房農業事務所 改良普及課  
普及技術員 中後 貴寛

南房総市は県内有数の切り花の産地です。今回は折原利明氏が代表取締役を務めている南房総市の有限会社折原園芸を紹介します。折原園芸では、経験の長い方や 20～30 代の若手、短期アルバイトなど、多様な従業員が働いており、人材育成や楽しく働ける職場環境づくりに取り組んでいます。

### 1 折原園芸の歴史

折原利明氏の父、正敏氏が昭和 52 年に切り花の栽培を開始し、平成 2 年に有限会社折原園芸を設立しました。平成 9 年に利明氏が 2 年間の海外農業研修を経て就農し、平成 23 年に折原園芸の代表取締役に就任しました。

現在は家族 4 名、正社員 14 名、パート社員 9 名、外国人技能実習生 2 名、1～2 か月程度の短期アルバイトを年間延べ 20 名程度雇用し、施設 2.21ha (120 棟)、露地 1ha でホワイトレースフラワーやヒマワリ、ハーブ類、ニゲラなど、約 20 品目 60 品種の切り花を栽培しています。



折原園芸の皆さん

### 2 経営の特長

#### (1) 人材育成

折原園芸は、経験のある従業員に新人の指導をさせるなど、責任のある仕事を任せ、自分で考えて行動することができる人材の育成に取り組んでいます。

現在では、栽培品目ごとにチームが決まっており、注文状況などから当日の作業を各チームで判断し、利明氏の指示がなくても作業できるようになっています。特に、ハーブ類やホワイトレースフラワー、ニゲラ、グリーンミストは市場との交渉も担当の従業員が行っています。

#### (2) 職場環境づくり

折原園芸では、就職希望者に対して、一緒に働いていけるかをお互いに確認するために、3 か月の試用期間を設けています。試用期間中や短期の従業員などには社員寮を提供することで、住居を探す負担を軽減し、遠方からでも応募しやすいようにしています。また、卓球やフットサルのサークル活動など、従業員が楽しく働ける職場環境の整備を進め、従業員の半数以上が 10 代～30 代の職場となっています。



サークル活動（卓球、フットサル）の様子

#### (3) 作業を効率的に行う工夫

どうすれば作業を効率的に行い、生産性を向上させ、経営を発展させることができるかを考え、バケット輸送※の導入やは種・運搬作業などの機械化、ほ場の後片付けの外部委託などに取り組んでいます。

※抗菌剤を入れた水をバケットに入れ、切り花を吸水した状態で立てて輸送することです。

### 3 今後について

折原園芸は市場、仲卸、小売などの実需者や消費者に必要とされる経営体を目指しています。

そのために、更に規模を拡大し、経営を発展させたいと考えています。折原園芸は、ホームページや SNS で情報を発信していますので、ぜひ御覧ください。

## ちば農業経営相談所の取組状況について

公益社団法人千葉県園芸協会  
産地振興部

昨年 4 月に設立した「ちば農業経営相談協議会」では、農業経営の高度化や効率化を支援するため、相談窓口である「ちば農業経営相談所（以下、「相談所）」を開設し、相談内容に応じた専門的なアドバイスを行っています。

今回は、その取組状況について御紹介します。

### 1 取組の概要

本取組は、各市町村の担い手等\*を経営戦略会議（協議会構成員及び専門家等で構成）において「重点指導農業者」として位置付け、経営相談対応を行うものです。平成 30 年 12 月までに 110 名を「重点指導農業者」に選定し、経営向上のためのサポートを行っています。

また、相談所では、県内の農業者を対象に研修会等も開催しています。

※担い手等とは、認定農業者、認定新規就農者、集落営農などの経営体を指します。

### 2 相談対応体制について

相談所は、千葉県農業者総合支援センターや県農業事務所、及び 6 次産業化サポートセンターなどの関係組織と連携し、必要に応じて専門家派遣を行っています。

なお、相談所は、県（担い手支援課）及び（公社）千葉県園芸協会の共同事務局体制により運営しています。

### 3 これまでの取組状況について

昨年 12 月末現在、相談件数は 125 件、うち経営診断の実施は 52 件、専門家派遣は 11 件となっています（表を参照。件数はいずれも延べ件数）。相談の内容としては、法人化関係が最も多く、次いで雇用・労務関係で、これらを合わせると全体の 7 割以上となっています。

また、重点指導農業者の関心が高い雇用に関して、人材確保や定着に向けた研修会を開催しました。

今後も、意欲ある生産者の経営発展に向け支援してまいりますので、関係機関・団体の皆様の御協力をお願いいたします。

（お問合せ先）

県担い手支援課経営体育成班

TEL 043-223-2905

（公社）千葉県園芸協会産地振興部

TEL 043-223-3008

表 相談対応の実施状況（平成 30 年 12 月末まで）

内 容	延べ件数	うち経営診断実施	うち専門家派遣
経営改善・診断	13	6	1
法人化	66	28	9
雇用・労務	25	10	
経営継承・相続	10	5	
販路拡大・販促	7	3	1
その他	4		
計	125	52	11

### 第 39 回千葉県フラワーフェスティバル 花き共進会結果報告

県生産振興課 園芸振興室

平成 31 年 1 月 10 日に行われた第 39 回フラワーフェスティバル花き共進会の審査結果は次のとおりです。

#### ○出品点数 551 点

(鉢花 140 点、観葉 48 点、洋らん 51 点、切花 1 部 129 点、切花 2 部 183 点)

#### ○入賞 110 点

(特別賞 33 点、金賞 77 点)

#### ○奨励賞 2 点

(洋らん、切花 2 部 各 1 点)



農林水産大臣賞きんぎょそう「雪姫」

鮮やかな白色が美しく、蕾も充実しており、葉色の美しさと相まって、素晴らしい草姿に仕上がっていました。

#### ○主な特別賞受賞者

賞名	品目	受賞者	市町村
農林水産大臣賞	きんぎょそう	小泉 輝子	南房総市
千葉県知事賞	ファレノプシス	薦岡 広明	南房総市
千葉市長賞	カーネーション	村岡 慎一	鋸 南 町
千葉県議会議長賞	エラチオール・ペゴニア	平野 晃久	旭 市
農林水産省生産局長賞	フィカス	高橋 繁之	九十九里町
農林水産省関東農政局長賞	ブーゲンビリア	石井 孝	鋸 南 町
公益社団法人千葉県園芸協会会長賞	LAユリ	能重 勉	南房総市
一般社団法人千葉県園芸協会会長賞	カトレア	加藤 英世	南房総市
NHK千葉放送局長賞	ストック	佐野 博信	館 山 市
千葉県農業協同組合中央会長賞	コニファー	鈴木 薫	山 武 市
千葉県花き園芸組合連合会長賞	ソテツ	石井 誠一	館 山 市

他 22 品

### 第 68 回関東東海花の展覧会開催結果

県生産振興課 園芸振興室

第 68 回関東東海花の展覧会が、2 月 1 日～3 日の 3 日間、サンシャインシティ文化会館（東京都豊島区池袋）で開催されました。

花き品評会では、関東東海地区 1 都 11 県から花き生産者の技術の粋を集めた切り花や鉢花、観葉植物、洋らんなど 1,766 点（うち千葉県 205 点）の出品がありました。

本県からは農林水産大臣賞の他、多くの方が入賞し、本県生産者の技術の高さが伺えました。（本県の受賞者は右表のとおり。）

また、本展覧会は、消費者の花に対する理解を深め、一層の花の消費拡大を図ることを目的として開催されており、品評会の出展品や当番県（埼玉県）による特別展示、フラワーデザインコンテストの作品、販売コーナー等、様々な花で会場が埋め尽くされました。



来場者で賑わう展覧会場

産地が集まる販売コーナー

#### 第 68 回関東東海花の展覧会 花き品評会 千葉県内特別賞受賞者一覧（順不同）

特別賞名	部門名	氏名	住所
農林水産大臣賞	球根切花	柴山 明彦	南房総市
全国農業協同組合中央会長賞	カーネーション	岩田 秀一	南房総市
全国農業協同組合中央会長賞	一般切花	小泉 敏明	南房総市
全国農業協同組合中央会長賞	一般鉢物	平野 晃久	旭市
千葉県知事賞	一般鉢物	(株)タカハシプランテーション	千葉市
農林水産省関東農政局長賞	一般切花	平嶋 勝司	館山市
日本花き生産協会会長賞	カーネーション	正木 竜一	南房総市
関東地域花き普及振興協議会会長賞	花苗	市原 勝吉	千葉市
千葉県花き園芸組合連合会長賞	一般切花	(株)フラワーハウスオザワ	旭市
誠文堂新光社「農耕と園藝」賞	一般切花	田村 比呂子	鋸南町
園芸文化協会会長賞	一般切花	(株)金井園芸	南房総市
サンシャインシティ代表取締役社長賞	一般切花	和田 芳樹	南房総市
東京花き共同荷受株式会社社長賞	一般切花	高木 チエ子	南房総市
日本花き卸売市場協会首都圏支所長賞	一般切花	鶴谷 照実	南房総市
日本花き卸売市場協会首都圏支所長賞	一般切花	(株)金井園芸	南房総市
日本花き卸売市場協会首都圏支所長賞	カーネーション	岡本 祥明	南房総市
日本花き卸売市場協会東海支所長賞	一般切花	吉田 孝	館山市
日本フラワーデザイナー協会理事長賞	カーネーション	鈴木 直人	鋸南町
JFTD会長賞	球根切花	朝生 秀子	君津市
JFTD会長賞	観葉植物	林 健一郎	旭市
日本種苗協会会長賞	一般鉢物	石井 孝	鋸南町
日本種苗協会会長賞	球根切花	大田 明美	館山市
日本花普及センター会長賞	球根切花	能重 勉	南房総市
日本花普及センター会長賞	洋らん	布施 源哉	山武市